

研究課題名	集中治療病棟における動脈圧ライン固定具が握力に及ぼす影響
所属(診療科等)	長崎みなとメディカルセンター リハビリテーション部
研究責任者(職名)	本郷 廉
研究期間	承認日 ~ 2025年 03月 31日
研究目的と意義	集中治療病棟(以下ICU)管理を要する重症の患者さんの多くは観血的動脈圧(以下Aライン)測定を行っており、その間Aライン固定具を使用しています。ICUにおけるリハビリの評価として患者さんの握力測定をICU初回評価、ICU退室時、退院時で実施しています。しかし多くの患者さんで、非Aライン側と比較してAライン側の握力は低い結果となります。Aライン固定具使用中は挿入部の保護の観点からもAライン側上肢の運動機会は少ないのが現状です。Aライン測定終了後も日常生活動作における違和感を訴える患者さんも認めました。ICUに関連する握力変化については、ICU-AWと言われる筋力低下との関連性を報告するものが散見されますが、Aライン固定具による影響を示唆した報告は散見されません。そこで、今回通常評価を行っているICU初回評価、ICU退室時、退院時の3点で観察し、Aライン側握力変化の傾向やAライン測定期間との関連性に関して調査を行うために後ろ向き研究を行うに至りました。
研究内容	●対象となる患者さん
	2024年1月1日から2024年7月17日まででICU入室後Aライン測定を要し、退院に至った患者さんを対象とします。
	●利用する情報
	(i)患者さんの背景として年齢、性別、疾患名 (ii)治療経過としてAライン測定期間、ICU入室期間、入院期間 (iii)握力評価としてAライン側・non-Aライン側の握力、握力変化率
	●研究方法
上記の情報をカルテより収集し、下記について検討します。 2024年1月1日から2024年7月17日まででICU入室後Aライン測定を要し、退院に至った症例を対象とします。後方視的に(i)患者さんの背景として年齢、性別、疾患名、(ii)治療経過としてAライン測定期間、ICU入室期間、入院期間。(iii)握力評価としてAライン側・non-Aライン側の握力、握力変化率を調査する。ICU初回評価時・ICU退室時・退院時の三点の評価結果を用いて行いました。主要アウトカムとしてはAライン側握力変化の傾向とAライン測定期間との関連性を明らかにすること、副次アウトカムはその他患者背景との関連性を明らかにすることとしました。統計解析はIBM SPSS Statisticsを用いて、Mann-WhitneyのU検定、カイニ乗検定を行います。Aライン側の握力測定に関しては、デジタル握力計[ジャマー型]MG-4800を使用しました。測定方法は仰臥位で統一します。2回の測定のうち最大値を結果として抽出します。Aライン挿入部の安全を確保するため、測定時Aライン固定具は手部のバンドのみを解除し、手関節は固定かつ計測者が徒手的に保護して測定しました。測定前後は担当看護師にAライン挿入部の確認とAライン固定具の再調整を依頼することを徹底しました。	
問い合わせ先	所属：長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター 住所：長崎市新地町6番39号 電話：095(822)3251 (内線3553) 受付時間：月～金 9:00～17:00(祝・祭日を除く)